広島赤十字・原爆病院
内科専門研修プログラム



2027 年 4 月

＊＊＊　目　次　＊＊＊

本プログラムの特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2

内科専門研修プログラム

１．理念・使命・特性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3
２．募集専攻医数　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5
３．専門知識・専門技能とは　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 6
４．専門知識・専門技能の習得計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 6
５．プログラム全体と各施設におけるカンファレンス　・・・・・・・・・・・・・・ P. 9
６．リサーチマインドの養成計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 9
７．学術活動に関する研修計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 9
８．コア・コンピテンシーの研修計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.10
９．地域医療における施設群の役割　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.10
10．地域医療に関する研修計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.11
11．内科専攻医研修（モデル）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.11
12．専攻医の評価時期と方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.12
13．専門研修管理委員会の運営計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.13
14．プログラムとしての指導者研修（FD）の計画　・・・・・・・・・・・・・・・・ P.14
15．専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）　・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.14
16．内科専門研修プログラムの改善方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.15
17．専攻医の募集および採用の方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.16
18．研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件　・・・・・・・ P.16

内科専門研修施設群・各施設の特徴　・・・・・・・・・・・・・ P.17

内科専門研修プログラム管理委員会　・・・・・・・・・・・・・ P.61

専攻医研修マニュアル　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.62

指導医マニュアル　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.68

別表：各年次到達目標・週間スケジュール　・・・・・・・・・ P.71

広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムの特徴

１．一般に不足しがちとされる血液内科・リウマチ膠原病内科・脳神経内科分野においても豊富な症例を経験出来ます。

２．連携施設は県内では広島市内や中山間地等の 6 施設、県外では九州大学病院をはじめとした福岡県ならびに大分県内の大・中規模病院の 12 施設および大阪府内の病院 1 施設あわせて 20 施設で、これらの施設での研修を組み合わせることにより、地域的・社会的背景の異なる多彩な症例や先進医療を経験することが可能です。

３．必要症例の研修を終えた場合には、3 年目に当院でサブスペシャリティ研修に進むことが出来ます。

４．内科のすべての分野で豊富な症例と優れた指導医を有しており、内科医としての見識を深める充実した研修を受けることができます。

５．大学医局入局の有無や出身大学を問いません。

広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム

1．理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1） 本プログラムは幅広い医療ニーズに対応出来る高い基礎的臨床能力を身につけた、広島県全域を支える内科専門医を育成します。

2） 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を有し、様々な医療環境で全人的な内科医療を実践する能力である。全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶ。その際、単なる繰り返しではなく、疾患や病態によって、特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験もできることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導・評価を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

1） 広島県広島医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、１）高い倫理観を持ち、２）最新の標準的医療を実践し、３）安全な医療を心がけ、４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2） 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3） 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4） 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1） 本プログラムは、広島市の 4 基幹病院のひとつである広島赤十字・原爆病院を基幹施設として、広島県内では県立広島病院、中国電力（株）中電病院（以下中電病院）、呉医療センター・中国

がんセンター、JA 尾道総合病院、総合病院庄原赤十字病院（以下庄原赤十字病院）、県立安芸津病院の 6 施設と県外では九州大学病院、JCHO 九州病院、北九州市立医療センター、浜の町病院、福岡赤十字病院、九州医療センター、原三信病院、九州大学別府病院、飯塚病院、新小倉病院、福岡市民病院、福岡和白病院、大阪大学医学部附属病院、福岡中央病院の 14 施設のあわせて 20 施設を連携施設として構成されています。都市部の大病院での研修と中山間地等の病院での研修を組み合わせることにより、幅広い疾患を研修するとともに、地域により異なる多彩な社会的背景の患者さんを経験する事が出来ます。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の計 3 年間になります。

2) 基幹施設である広島赤十字・原爆病院は、広島市の 4 基幹病院の一つである急性期病院です。内科専門医研修で経験する事を求められながら症例が不足しがちな血液疾患・膠原病・脳神経疾患についても豊富な症例があり、広い分野にわたる十分な症例を経験する事が出来るだけでなく、多数の指導医により適切な指導を受ける事が出来ます。また中山間地等非都市部の連携施設は地域に根ざす第一線の病院であり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会をより反映した複数の病態を持った患者の診療を経験出来ます。

3) 基幹施設である広島赤十字・原爆病院での 2 年間、もしくは広島赤十字・原爆病院と連携施設での計 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、80 症例以上を経験し、専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P. 71 別表 1：各年次到達目標を参照）。

4) 広島赤十字・原爆病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、3 年の研修期間のうちの少なくとも 1 年間は連携施設である各医療機関において研修を行います。立場や地域における役割の異なる医療機関で研修により幅広い知識を身につけます。

5) 基幹施設である広島赤十字・原爆病院での 2 年間と連携施設での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（P. 71 別表 1：各年次到達目標を参照）。

6) 専攻医 2 年終了時の時点において、連携施設での 1 年間の研修を終え、かつ上記目標を達成している場合には、3 年目に広島赤十字・原爆病院において消化器・循環器・呼吸器等の subspeciality の研修を開始することが出来ます。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、１）高い倫理観を持ち、２）最新の標準的医療を実践し、３）安全な医療を心がけ、４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医が多様な医療現場で活動し、

1) 病院医療（内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備え実践します。内科疾患全般の初期対応とコモンディジーズの診断と治療を行うことに加え、内科系サブスペシャリストとして診療する際にも、臓器横断的な視点を持ち全人的医療を実践します。）
2) 地域医療（かかりつけ医として地域において常に患者と接し、内科系の慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践します。）
3) 救急医療（内科系急性・救急疾患に対するトリアージを含め、地域での内科系の急性・救急疾患への迅速かつ適切な診療を実践します。）

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じて多様な環境で活躍できる内科専門医を多く輩出することにあります。

広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムでの研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、広島県広島医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本プログラムでの研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

1)～3)により、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は
1 学年４名です。

1) 広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム専攻医は現在 6 名です。
2) 広島大学病院や九州大学病院等の他施設が基幹となるプログラムの連携施設としても専攻医を受け入れており、現在 3 学年あわせて 18 名の後期研修医が在籍しています。
3) 内科系剖検体数は 2025 年度 2 体です。

表：広島赤十字・原爆病院　診療科別診療実績（2025 年度実績）

	入院延患者数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
消化器内科	18,712	37,053
循環器内科	7,552	16,179
呼吸器内科	11,913	11,335
血液内科	46,502	39,873
腎臓内科	4,786	18,680
脳神経内科	4,265	6,432
リウマチ科	4,506	13,031
内分泌代謝内科	6,376	21,324
緩和ケア内科	3,853	3,600
総合内科	0	408
内科　合計	108,465	167,915

3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］
専門知識の範囲（分野）は、総合内科、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病及び類縁疾患、感染症、ならびに救急で構成されます。
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における解剖と機能、病態生理、身体診察、専門的検査、治療、疾患などを目標（到達レベル）とします。

2) 専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］
内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8～10】（P. 71 別表 1：各年次到達目標を参照）
主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）１年次
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、40 症例以上を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します。
- 技能：専攻医は研修中の疾患群に対する診断と治療に必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- 態度：専攻医は自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回受け、態度の評価を行い、担当指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）２年次
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、80 症例以上の経験をし、J-OSLER にその研修内容を登録します。
- 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します。
- 技能：専攻医は研修中の疾患群に対する診断と治療で必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回受け、態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを担当指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）３年次

・症例：専攻医は主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。

・症例指導医は専攻医として適切な経験と知識の修得ができているかどうかを確認し、不十分と考えた場合にはフィードバックと再指導とを行います。

・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、所属するプログラムにおける一次評価を受け、その後、日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受け、受理されるまで改訂を重ねます。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。

・技能：専攻医は内科領域全般にわたる診断と治療で必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を自立して行うことができます。

・態度：専攻医は自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回受け、態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします。J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

広島赤十字・原爆病院内科専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を適宜延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

① 内科専攻医は、担当指導医・上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。入院から退院まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

② 定期的に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
③ Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を担当して経験を積みます。
④ 救急外来を当番制で担当し、内科領域の救急診療の経験を積みます。
⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
⑥ 要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

１）内科領域の救急対応、２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、４）医療倫理、医療安全、感染対策、臨床研究や利益相反に関する事項、５）専攻医の指導・評価方法に関する事項などは、以下の方法で研鑽します。

① 定期的に開催する各診療科での抄読会
② 医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会※内科専攻医は年に 2 回以上受講
③ CPC
④ 研修施設群合同カンファレンス
⑤ 地域参加型のカンファレンス（広島赤十字・原爆病院病診連携会、整形外科病診連携会、循環器内科病診連携会、消化器内科病診連携会、呼吸器オープンカンファレンスなど）
⑥ JMECC 受講
⑦ 内科系学術集会（下記「７．学術活動に関する研修計画」参照）
⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会など

4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した)、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低

56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します。指導医はこれを評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。

・専攻医による逆評価を入力して記録します。

・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約二次評価査読委員（二次査読）による外部評価とフィードバックを受け、指摘事項に基づく改訂が受理（アクセプト）されるまでシステム上で継続します。

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会等）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】

広島赤十字・原爆病院内科専門研修でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載しました（P. 17「広島赤十字・原爆病院内科専門研修施設群」参照）。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である広島赤十字・原爆病院の教育研修推進室が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

広島赤十字・原爆病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする
② 科学的な根拠に基づく診断、治療を行う（EBM：evidence based medicine）
③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解に資する研究を行う
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。

併せて、

① 臨床研修医あるいは医学部学生の指導を行う
② 後輩専攻医の指導を行う
③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

広島赤十字・原爆病院専門研修施設群は基幹病院、連携病院のいずれにおいても、

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
② 経験症例をもとに文献検索を行い、症例報告を行います
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います
④ 内科学に関連する基礎研究を行います

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行います。
なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。
広島赤十字・原爆病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。
① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導
※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。
広島赤十字・原爆病院内科専門研修施設群（P.17）は、広島県広島医療圏および近隣医療圏、福岡県福岡糸島医療圏、北九州医療圏、大分県東部医療圏、大阪府豊能医療圏の医療機関から構成されています。
広島赤十字・原爆病院は、広島県広島二次医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。
連携施設は、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、広島市の 4 基幹病院の一つである県立広島病院、呉市の基幹施設の一つである呉医療センター・中国がんセンター、尾道市の基幹施設の一つである JA 尾道総合病院、中山間地の地域基幹病院である庄原赤十字病院、都市部の地域基幹病院である中電病院、瀬戸内海に面した地域医療密着型病院である県立安芸津病院、福岡県の大病院である九州大学病院、JCHO 九州病院、北九州市立医療センター、浜の町病院、

福岡赤十字病院、九州医療センター、原三信病院、九州大学別府病院、飯塚病院、新小倉病院、福岡市民病院、福岡和白病院、福岡中央病院、大阪府の大病院である大阪大学医学部附属病院で構成されています。都市部の大病院での研修と中山間地等の病院での研修を組み合わせることにより、幅広い疾患を研修するとともに、地域により異なる多彩な社会的背景の患者さんを経験する事が出来ます。

広島赤十字・原爆病院や県立広島病院、呉医療センター・中国がんセンター、JA 尾道総合病院、九州大学病院、JCHO 九州病院、北九州市立医療センター、浜の町病院、福岡赤十字病院、九州医療センター、原三信病院、九州大学別府病院、飯塚病院、福岡市民病院、福岡和白病院、福岡中央病院、大阪大学医学部附属病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院である庄原赤十字病院や中電病院、新小倉病院では、前記病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院である県立安芸津病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の計 3 年間になります。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

広島赤十字・原爆病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するのみならず、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

11. 広島赤十字・原爆病院 内科専門研修プログラム（モデル）【整備基準 16】

月 / 年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
専攻医 1 年次	**広島赤十字・原爆病院（内科・Subspecialty）**											
	各科レクチャー・医療倫理・医療安全・感染対策セミナー・CPC・JMECC など											
	症例経験（20 疾患群 40 症例以上）病歴要約作成・登録（10 症例以上）											
専攻医 2 年次	**連携施設（内科・Subspecialty）**											
	各科レクチャー・医療倫理・医療安全・感染対策セミナー・CPC・JMECC など											
	症例経験（45 領域 80 症例以上）病歴要約作成・登録（全 29 症例）											
専攻医 3 年次	**広島赤十字・原爆病院（内科・Subspecialty）**											
	各科レクチャー・医療倫理・医療安全・感染対策セミナー・CPC・JMECC など											
	症例経験（45 領域 120 症例以上）病歴要約作成・登録（全 29 症例）											

原則として、基幹施設である広島赤十字・原爆病院内科で専攻医 1 年目研修を行い、2 年目に連携施設、3 年目に再び広島赤十字・原爆病院で研修を行います。

但し、連携施設での研修については、研修状況に応じて時期および期間等の変更を行うこともあります。なお、当院での研修期間は 1 年以上とします。

専攻医 2 年目の秋頃に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。研修達成度によっては 3 年目に Subspecialty 研修も可能です。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19～22】

(1) 広島赤十字・原爆病院教育研修推進室の役割

・広島赤十字・原爆病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
・広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
・J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
・年に複数回（8 月頃と 2 月頃、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
・教育研修推進室は、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月頃と 2 月頃、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務職員などから、接点の多い職員を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、教育研修推進室もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
・専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、40 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、80 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、120 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や教育研修推進室からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験

できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
・担当指導医はSubspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
・専攻医は2年修了時までに29症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLERに登録します。担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理されるように病歴要約について形成的な指導を行います。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、3年次修了までにすべての病歴要約が受理されるように改訂します。

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに広島赤十字・原爆病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準53】
1) 担当指導医は、J-OSLERを用いて研修内容を評価し、以下ⅰ)～ⅵ)の修了を確認します。
ⅰ) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上（外来症例は20症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容をJ-OSLERに登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計120症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含むことができます）を経験し、登録済みであることが必要（P. 71別表1 ：各年次到達目標を参照）。
ⅱ) 29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理
ⅲ) 所定の2編の学会発表または論文発表
ⅳ) JMECC受講
ⅴ) プログラムで定める講習会受講ⅵ) J-OSLERを用いてメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
2) 広島赤十字・原爆病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約1か月前に広島赤十字・原爆病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備
「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、J-OSLERを用います。なお、「広島赤十字・原爆病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準44】（P. 62）と「広島赤十字・原爆病院内科専門研修指導医マニュアル」【整備基準45】（P. 68）と別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準34、35、37～39】

（P. 61「広島赤十字・原爆病院内科専門研修管理委員会」参照）

1) 広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
ⅰ) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（内科診療科部長）、Subspecialty分野の研修指導責任者（診療科部長）、事務局代表者、連携施設担当委員で構成されます（P. 61 広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）。広島赤十字・

原爆病院内科専門研修管理委員会の事務局を、広島赤十字・原爆病院教育研修推進室におきます。

ii）広島赤十字・原爆病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長1名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、広島赤十字・原爆病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、広島赤十字・原爆病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

① 前年度の診療実績
a） 病院病床数、b） 内科病床数、c） 内科診療科数、d） 1か月あたり内科外来患者数、
e） 1か月あたり内科入院患者数、f ） 剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数
a)前年度の専攻医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専攻医数、
d)次年度の専攻医受け入れ可能人数。

③ 前年度の学術活動
a） 学会発表、b)論文発表

④ 施設状況
a） 施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科との合同カンファレンス、
e)抄読会、f)机、g)図書館、h)文献検索システム、i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j)JMECC の開催。

⑤ Subspecialty 領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用いる予定です。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

基幹施設である広島赤十字・原爆病院や連携施設の就業環境に基づき、就業します（P. 17「広島赤十字・原爆病院内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である広島赤十字・原爆病院の整備状況：

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります
・日本赤十字社の常勤嘱託医師として労務環境が保障されています
・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります
・ハラスメント委員会が整備されています
・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、仮眠室、シャワー室が整備されています

・敷地内に院内保育所があり、利用可能です

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P. 17「広島赤十字・原爆病院内科専門施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価 J-OSLER を用いて無記名式の逆評価を年に複数回実施します。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

・担当指導医、施設の内科研修委員会、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムを評価します。

・担当指導医、各施設の内科研修委員会、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを求められた場合、それを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じてプログラムの改良等、適切に対応します。

広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、ウェブサイトでの公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、所定の期日までに広島赤十字・原爆病院ウェブサイトの広島赤十字・原爆病院医師募集要項（広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

【問い合わせ先】

広島赤十字・原爆病院 教育研修推進室 E-mail: kyouiku@hiroshima-med.jrc.or.jp

広島赤十字・原爆病院 HP: http://www.hiroshima-med.jrc.or.jp

広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

18. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER の登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。週 31 時間未満の勤務時間となる場合は、時短勤務の扱いとなりますが、これについては別途用意された『内科領域カリキュラム制（ 単位制 ）による研修制度』を適用することで、研修期間として換算することができます。ただし、週 31 時間以上のフルタイムで勤務を行った場合と比べ、有効な研修期間は短くなります。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

広島赤十字・原爆病院内科専門研修施設群

研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）

図 1：広島赤十字原爆病院　内科専門研修プログラム（概念図）

月 / 年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
専攻医 1 年次	広島赤十字・原爆病院（内科・Subspecialty）											
	各科レクチャー・医療倫理・医療安全・感染対策セミナー・CPC・JMECC など											
	症例経験（20 疾患群 40 症例以上）病歴要約作成・登録（10 症例以上）											
専攻医 2 年次	連携施設（内科・Subspecialty）											
	各科レクチャー・医療倫理・医療安全・感染対策セミナー・CPC・JMECC など											
	症例経験（45 領域 80 症例以上）病歴要約作成・登録（全 29 症例）											
専攻医 3 年次	広島赤十字・原爆病院（内科・Subspecialty）											
	各科レクチャー・医療倫理・医療安全・感染対策セミナー・CPC・JMECC など											
	症例経験（45 領域 120 症例以上）病歴要約作成・登録（全 29 症例）											

広島赤十字・原爆病院内科専門研修施設群研修施設

表 1．各研修施設の概要

	施　設	病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	広島赤十字・原爆病院	565	10	24	22	2
連携施設	九州大学病院	1242	9	151	121	13
連携施設	呉医療センター・中国がんセンター	645	15	24	18	10
連携施設	JA 尾道総合病院	393	117	10	13	7
連携施設	県立広島病院	707	11	36	26	7
連携施設	庄原赤十字病院	248	8	6	6	1
連携施設	県立安芸津病院	98	1	1	1	0
連携施設	中電病院	248	1	4	3	0
連携施設	JCHO 九州病院	575	9	3	21	10
連携施設	北九州市立医療センター	522	12	21	19	10
連携施設	浜の町病院	468	14	9	30	3
連携施設	福岡赤十字病院	511	12	7	25	5
連携施設	九州医療センター	702	13	35	29	8
連携施設	原三信病院	359	7	3	17	2
連携施設	九州大学病院別府病院	104	1	2	6	0
連携施設	飯塚病院	1006	18	41	43	8
連携施設	新小倉病院	259	11	4	8	0
連携施設	福岡市民病院	204	8	9	14	0
連携施設	福岡和白病院	369	10	10	10	2
連携施設	大阪大学医学部附属病院	1086	264	92	162	10
連携施設	福岡中央病院	192	11	8	16	0

表２．各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	脳神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
広島赤十字・原爆病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
呉医療センター・中国がんセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
JA 尾道総合病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	△	○	○
県立広島病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	△	○
庄原赤十字病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	△	△	○
県立安芸津病院	△	○	△	○	○	○	○	△	○	△	×	○	○
中電病院	○	○	○	△	○	△	○	△	△	△	△	○	○
JCHO 九州病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
北九州市立医療センター	○	○	○	○	○	△	○	○	△	△	○	○	○
浜の町病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福岡赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
原三信病院	○	○	○	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○
九州大学病院別府病院	△	△	○	×	×	×	×	○	×	×	○	△	×
飯塚病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○
新小倉病院	○	○	○	△	○	×	○	○	△	△	○	○	○
福岡市民病院	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○
福岡和白病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福岡中央病院	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	×	×

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を（○ △ ×）に評価
〈○：研修できる，△：時に経験できる，×：ほとんど経験できない〉

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。広島赤十字・原爆病院内科専門研修施設群研修施設は広島県広島医療圏および近隣医療圏、福岡県福岡糸島医療圏、北九州医療圏、大分県東部医療圏、大阪府豊能医療圏の医療機関から構成されています。

広島赤十字・原爆病院は、広島県広島二次医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、広島市の 4 基幹病院の一つである県立広島病院、呉市の基幹病院の一つである呉医療センター・中国がんセンター、尾道市の基幹施設の一つである JA 尾道総合病院、中山間地の地域基幹病院である庄原赤十字病院、都市部の地域基幹病院である中電病院、瀬戸内海に面した地域医療密着型病院であ

る県立安芸津病院、福岡県の大病院である九州大学病院、JCHO 九州病院、北九州市立医療センター、浜の町病院、福岡赤十字病院、九州医療センター、原三信病院、九州大学別府病院、飯塚病院、新小倉病院、福岡市民病院、福岡和白病院、福岡中央病院、大阪府の大病院である大阪大学医学部附属病院で構成されています。広島赤十字・原爆病院や県立広島病院、呉医療センター・中国がんセンター、JA 尾道総合病院、九州大学病院、JCHO 九州病院、北九州市立医療センター、浜の町病院、福岡赤十字病院、九州医療センター、原三信病院、九州大学別府病院、飯塚病院、福岡市民病院、福岡和白病院、福岡中央病院、大阪大学医学部附属病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院である庄原赤十字病院や中電病院、新小倉病院では、前記病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院である県立安芸津病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

専門研修施設（連携施設）の選択

- 専攻医１年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- 原則として専攻医 2 年目の 1 年間、連携施設で研修をします（図 1）。なお、研修達成度によってはSubspecialty 研修も可能です。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

広島赤十字・原爆病院内科専門研修施設群研修施設は広島県広島医療圏および近隣医療圏、福岡県福岡糸島医療圏、北九州医療圏、大分県東部医療圏、大阪府豊能医療圏の医療機関から構成されています。

県内で最も距離が離れている庄原赤十字病院は中山間地にあり広島市中心部からの通勤はやや困難ですが、宿舎が利用出来ます。県立安芸津病院は広島市内から車で一時間程度の場所に位置します。

1）専門研修基幹施設：広島赤十字・原爆病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	内科指導医が 24 名在籍しています。 研修プログラム管理委員会を設置し、基幹施設および連携施設の研修委員会との連携を行います。 ・プログラム統括責任者：澤部　琢哉（リウマチ科部長） 院内で研修を管理する研修委員会を設置します。 ・委員長：横山　敬生（腎臓内科部長） 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 5 回、感染対策 8 回） 研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績 4 回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講のための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績 18 回）
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科の領域の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	澤部　琢哉 【内科専攻医へのメッセージ】 当病院は、地域がん診療連携拠点病院・地域医療支援病院・災害拠点病院であり、また医科・歯科の臨床研修指定病院でもある基幹病院です。多数の内科指導医・内科サブスペシャリティ専門医の指導のもと、主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になるための研修を受けられます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名 日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本消化器病学会専門医 10 名 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 3 名

	日本呼吸器学会専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本血液学会認定血液専門医 9 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名　など
外来・入院患者延数	外来患者 26,644 名（1 ヶ月平均）　入院患者 14,816 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんや循環器疾患・脳血管障害等の急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、終末期医療などを通じて，地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本肝臓学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度准教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設群連携施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本胆道学会認定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・ＮＳＴ実施施設 日本栄養治療学会ＮＳＴ稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定ＮＳＴ稼動施設 日本骨髄バンク非血縁者間骨髄採取施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本骨髄バンク非血縁者間末梢血幹細胞採取・移植施設認定施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血幹細胞移植施設 日本膵臓学会認定指導医制度指導施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設　など

2） 専門研修連携施設

1. 九州大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·九州大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ·ハラスメント委員会が九州大学に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が（2025 年度）151 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医の倫理 1 回／採用時必須、医療安全　2 回／年、感染対策　2 回／年）し，専攻医に受講（e-learning 講習）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，リウマチ，膠原病，感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績　23 演題）をしています.
指導責任者	桑原　綾子 【内科専攻医へのメッセージ】 　九州大学病院は福岡県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に協力病院として大学病院の内科系診療科も加わることで、リサーチマインドの育成などを含む質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全・倫理を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 151 名，日本内科学会総合内科専門医 121 名 日本消化器病学会消化器専門医 30 名，日本循環器学会循環器専門医 28 名， 日本内分泌学会専門医 8 名，　日本糖尿病学会専門医 17 名， 日本腎臓病学会専門医 21 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 12 名， 日本血液学会血液専門医 18 名，日本神経学会神経内科専門医 16 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本リウマチ学会専門医 12 名， 日本感染症学会専門医 16 名，日本救急医学会救急科専門医 2 名， 老年医学会 2 名，肝臓学会 10 名，消化器内視鏡学会 26 名，臨床腫瘍学会 12 名 他

外来・入院患者数	内科系外来患者 16,940 名（1 ヶ月平均延数）内科系入院患者 11,068 名（1 か月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本東洋医学会教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

２．呉医療センター・中国がんセンター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院 ・図書室があります。 ・インターネット環境があります。 ・メンタルヘルス相談体制が整っており、相談ページを院内 HP に掲載し相談しやすい環境を整えています。また職場復帰支援も実施しています。 ・ハラスメント対策：ハラスメント報告ページを院内ページに設置し相談しやすい環境を整えています。パワハラ、セクハラに関して必要に応じ委員会が開催されます。 ・院内保育所があり、利用可能です。 ・女性専用休憩室、更衣室など女性医師が安心して勤務できる体制が整っています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・基幹施設、連携施設の研修委員会との連携をおこないます。 プログラム統括責任者：大下　智彦（臨床研修センター部長） ・院内での研修を管理する研修委員会を設置します。 委員長：吉田　成人（内科系診療部長） ・各種講習会を開催し、専攻医が受講できる時間的余裕を与えます。 ・医療安全、感染対策、医療倫理講習会は、年２回開催し専攻医に受講を義務つけます。学会や体調不良、当直など正当な理由で受講ができなかった場合はスライド資料や DVD などで自習を行い、研修委員長が確認し事務に報告します。 ・CPC は 10 回／年、Autopsy board は 10 回／年程度開催しています。専攻医には出席を義務付けます。 ・地域連携カンファレンス、消化器合同カンファレンスなどを毎月開催しています。 ・内科オープンカンファレンス　毎月開催しています。専攻医は連携施設での研修中もカンファレンスに参加するよう時間的余裕を与えます。 ・医療倫理講習会、医療安全講習会、感染対策講習会　各２回／年　開催しています。 ・JMECC は 1-2 回／年（20-30 名／年　受講）開催しています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	きわめて稀な疾患を除き、研修カリキュラムで求められる 13 領域 70 症候群を幅広く経験することができます。アレルギー、感染症はほかの領域の研修や救急外来からの入院症例にて経験可能です。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究部には動物実験や分子細胞学的研究を行うことができる設備を有しています。 ・倫理審査委員会を設置し月１回定期開催しています。 ・治験管理室を設置し各種研究の支援を行っています。国立病院機構の共同研究にも多く参加しています。 ・日本内科学会を始め内科系サブスペシャルティ領域の総会、地方会、国際学会で数多く発表しています。 ・初期臨床研修医の症例発表の場である呉クリニカルフォーラムを年２回開催し、その発表準備の指導に当たり、座長を努めます。 ・内科オープンカンファレンスでの講師を務めます。
指導責任者	大下　智彦（脳神経内科科長） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は呉二次医療圏の「最後の砦」としての救急医療を担いつつ、がんセンターとしての機能を有しているため、研修期間中に多彩な症例を経験することができます。

	上級医から学び、また初期研修医に指導する姿勢を身に着けることから、幅広い領域に対応できる内科専門医になることができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　25名　日本内科学会総合専門医　21名 日本消化器病学会消化器専門医　10名　日本肝臓学会肝臓専門医　5名 日本循環器学会循環器専門医　5名　日本糖尿病学会専門医　1名 日本腎臓病学会専門医　2名　日本呼吸器学会呼吸器専門医　3名 日本血液学会血液専門医　2名　日本神経学会神経内科専門医　5名
外来・入院患者数	外来　17,956 名（1か月平均総数） 入院　13,407名（1か月平均総数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除き、研修カリキュラムで求められる13領域70症候群を幅広く経験することができます。アレルギー、感染症はほかの領域の研修や救急外来からの入院症例にて経験可能です。
経験できる技術・技能	・技術技能評価手帳にある技術／技能をシミュレーションや実際の症例で身につけることができます。 ・Procedures Consult®により主な手技は映像教材で手順、適応などを確認することができます。 ・呉医療技術研修センターはSimMan3G®1台、レサシアンシミュレータ®2台、SimPad®３機をはじめ、エコーガイド下 CV 穿刺トレーナなど高機能シミュレータを有するとともに、機材を管理する専門職員を配置しており、希望時にはいつでも使用可能です。同施設で JMECC を 1-2 回/年、ハンズオンセミナーなどシミュレーション教育を適宜開催、近隣の若手医師が参加しています。 ・実際の症例でも各診療科に特有な検査手技を指導医のもと十分経験することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	二次医療圏の中核病院として病診・病病連携を行い、地域に向けた講演会も多数開催している。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム認定 日本認知症学会教育施設

３．JA尾道総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･JA 尾道総合病院医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が広島県厚生連本所に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医は 10 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（JA 尾道総合病院オープンカンファレンス・がん連携フォーラム）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	花田敬士 【内科専攻医へのメッセージ】 当院では将来内科系サブスペシャリティを指向する医師に向けたプログラム、および広島県尾三地域に根ざし幅広い内科学の研修を希望する医師に向けた地域完結型プログラムを作成しています。前者では、関連施設と連携を取りながら、特に消化器、呼吸器、循環器、腎臓領域の高いレベルの診療・学術活動・臨床研究を通じて将来全国、世界に十分通用する医師の養成を目指しています。後者では、優秀な指導医が在籍する尾三地域の関連施設を中心に内科学各領域を研修し、また当地区で展開されている良好な地域医療連携を学び、包括的な内科診療が実践できる医師の養成を目指しています。
指導医数 （常勤医）	10 名

外来・入院患者数	外来患者 735 名（1 日平均）・入院患者 313 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	・日本内科学会認定医制度教育病院 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本消化器病学会認定医制度認定施設 ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設 ・日本高血圧学会専門医認定施設 ・日本高血圧学会認定研修施設 ・日本大腸肛門病学会認定施設 ・日本透析医学会認定施設 ・日本胆道学会認定施設

４．県立広島病院

認定基準 【整備基準23】 1）専攻医の環境	● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ● 研修に必要な図書館とインターネット環境があります. ● 県立広島病院常勤医師として労務環境が保障されています. ● メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課、衛生委員会）があります. ● ハラスメント相談窓口が地方独立行政法人広島県立病院機構本部事務局に整備されています. ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. ● 敷地内には院内保育所があり、利用可能です.
認定基準 【整備基準23】 2）専門研修プログラムの環境	● 指導医は36名在籍しています. ● 内科専門研修プログラム管理委員会により、基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医にはいずれかの講習会に年２回以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ● 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ● CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ● 地域参加型のカンファレンス（総合診療科オープンカンファレンス、広島湾岸消化器疾患勉強会、広島コーラルラインエリア不整脈心不全治療研究会、湾岸循環器連携カンファレンス、湾岸心血管クリニカルセミナー、広島湾岸認知症セミナー、プレホスピタルカンファレンス、県立広島病院がん医療従事者研修会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準23/31】 3）診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても10分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ● 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても62以上の疾患群）について研修できます.
認定基準 【整備基準23】 4）学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室を整備しています. ● 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています. ● 治験支援室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています. ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	上田浩徳（プログラム統括責任者　副院長　脳心臓血管センター長　循環器内科主任部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 広島県の中心的な高度急性期病院である県立広島病院を基幹施設として、広島県広島医療圏を中心に、県内の他医療圏（広島西、呉、広島中央、尾三、備北）の施設及び沖縄県内２病院と連携した研修施設群を構成しています. 基幹施設ではサブスペシャルティ専門研修に重点を置き、十分な症例数と充実した指導体制のもと、豊富な連携施設・特別連携施設での研修と併せて質の高い研修を受けることが可能となっています. 当院での研修を通して、疾患の治療だけでなく、患者の社会的側面、心理的側面も考慮した、全人的医療を実践できる内科専門医を目指してください.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医36名，日本内科学会総合内科専門医26名， 日本消化器病学会消化器専門医14名，日本肝臓学会肝臓専門医3名， 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医9名， 日本循環器学会循環器専門医７名，日本呼吸器学会呼吸器専門医5名， 日本糖尿病学会専門医２名，日本腎臓病学会専門医4名， 日本神経学会神経内科専門医3名，日本感染症学会専門医３名， 日本リウマチ学会専門医2名　　ほか
外来・入院患者延数	内科外来患者87,507名　内科入院患者77,641名　（2025年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 など

５．庄原赤十字病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院である。（協力型） ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本赤十字社の正規職員または嘱託職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する委員会（衛生委員会）があります。 ・日本赤十字社ハラスメント防止規程が制定されており、相談員を任命しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が6名在籍しています（下記）。 ・臨床研修委員会を設置しており、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績医療倫理1回、医療安全3回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣ を開催（2025年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。開催が困難な場合には、基幹施設で行うＣＰＣ、もしくは日本内科学会が企画するＣＰＣの受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で1演題以上の学会発表をしています。（2025年度実績4演題） ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025年度実績4回）しており、臨床研究等に係る審査を行っています。（2025年度実績8件）
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・治験審査委員会を設置しています。 ・専攻医が国内の学会へ参加、発表をする機会があります。
指導責任者	鎌田耕治 【内科専攻医へのメッセージ】 庄原赤十字病院は、地域唯一の総合病院としてかかりつけ医から2次救急医療機関として、幅広く症例を経験することができます。広島赤十字・原爆病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として、内科専門医の育成を行います。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医6名、日本内科学会総合内科専門医5名 日本肝臓学会指導医1名、日本肝臓学会肝臓専門医2名 日本がん治療認定医機構がん治療認定医2名 日本消化器病学会指導医3名、日本消化器病学会消化器病専門医4名 日本消化器内視鏡学会指導医2名、日本消化器学会消化器内視鏡専門医3名、日本胆道学会指導医1名、日本循環器学会循環器専門医2名 日本消化管学会胃腸科専門医1名、日本腎臓学会認定指導医1名、日本腎臓学会腎臓専門医1名
外来・入院 患者数	内科外来患者 約2,346名（1ヶ月延数） 内科入院患者 約3,156名（1ヶ月延数）
経験できる疾患群	血液内科等、症例の少ないものを除いて研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域連携、無医地区への巡回診療や過疎地の診療所での診療なども経験できます。 また、併設する訪問看護ステーションと協力して在宅医療を経験することができます。
学会認定施設 （内科系のみ）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本栄養治療学会NST稼働施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

６．中電病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·中電病院常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署が本社にあります. ·ハラスメント対応部署が本社に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が４名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 2 回（各複数回開催），感染対策２回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，代謝，呼吸器感染および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	金　宣眞 【内科専攻医へのメッセージ】 　中電病院は広島市中区にあり，急性期一般病棟 131 床，地域包括ケア病棟 45 床を有し，地域の医療・保健・福祉を担っています．広島赤十字・原爆病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名，日本内科学会総合内科専門医 3 名，日本消化器病学会消化器病専門医 8 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 5,438 名（1 ヶ月平均）　　入院患者 123 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会専門医制度特別連携施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設など

７．県立安芸津病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があります。 ・専攻医の労務環境が保障されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう，浴室，当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が１名在籍しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しています。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医委が受講する時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す 13 分野のうち，総合内科，アレルギー及び膠原病を除く分野で定常的に専門研修が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で１演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	後藤　俊彦 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は，広島県東広島市南部にあり，地域に密着した病院を目指して地域医療機関や福祉・行政などと協力して在宅療養を支援しています。
指導医数 （常勤医）	1 名
外来・入院患者数	外来 1,409 名（1 か月平均総数）入院 713 名（1 か月平均総数）
経験できる疾患群	研修手帳中，１０領域３３疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専攻医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定指導施設

８．地域医療機能推進機構（JCHO）九州病院

認定基準 1)専攻医の環境	• 厚生労働省臨床研修指定病院(管理型臨床研修病院)です. • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります．UpToDate、今日の診療と治療、医学雑誌は電子書籍になっており，図書室以外でもダウンロードして読むことができます．ダウンロードができない文献については出版社に注文しますが、病院が全額補助をしています。 • 医局内に個人専用の机・本棚などが整備されています. • JCHO九州病院非常勤医師として労務環境が保障されています. • メンタルストレスに適切に対処する部署(総務企画課職員+臨床心理士及び安全衛生委員会)があります. • ハラスメント委員会がJCHO九州病院内に整備されています. • 女性専攻医が安心して勤務できるように，女性医師専用の休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. • 敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	● 指導医は3名、総合内科専門医は21名在籍しています. ● 内科専門研修プログラム管理委員会 （統括責任者は副院長、総合内科専門医かつ指導医） にて基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ● 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育センターを設置しています. ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ● 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ● CPCを定期的に開催し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ● 地域参加型のカンファレンス （北筑カンファレンス ［循環器関係、年４回開催］，岸の浦カンファレンス ［消化器関係、偶数月開催］，八幡成人病懇話会［年３回］，内科医会［月１回］，八幡内科医会学術研究会［月１回］，帆柱内科カンファレンス ［月１回］，北部福岡感染症研究会 ［月１回］，北九州胃腸懇話会 ［月１回］，北部福岡臨床救急セミナー ［月１回］，北九州糖尿病の集い ［月１回］） を定期的に開催し，専攻医が参加しやすいように時間的余裕を与えます. ● プログラムに所属する専攻医にJMECC受講を開催します. ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ● 70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ● 専門研修に必要な剖検（過去３年の平均は10体）を行っています.

認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ● 倫理委員会を設置し，定期的に開催（年間実績12回）しています. ● 治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（年間12回）しています. ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での発表をサポートします. ● 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています.
指導責任者	原田 大志（内科部長、副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 JCHO九州病院 （独立行政法人地域医療機能推進機構、Japan Community Healthcare Organization [JCHO])は，その名の通り日本の地域医療機能を推進することを目標に設立された全国57JCHO病院群の一つです. その中でも JCHO九州病院は福岡県北九州市・遠賀・中間医療圏の中心的な高次機能・専門病院であり，また急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です. 高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患などの診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身に着けることができます. 一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます. このようにして、JCHO九州病院での研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を通じて，将来の地域医療を担う総合内科医から内科専門分野を担う医師まで，幅広い方面で活躍できる内科専門医の養成を目指しています. 主担当医として，入院から退院（初診・入院~退院・通院)まで経時的に診療に関与し，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育てることが目標です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 9 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 1 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 3 名， 日本神経学会神経内科専門医 1 名，日本アレルギー学会専門医(内科) 0 名， 日本リウマチ学会専門医 0 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本救急医学会救急科専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	2024 年度　一日平均外来患者数 247.7 人、一日平均入院患者数 209.2 人
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表)にある 56 領域，160 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	これからの超高齢化社会では人々は複数の疾患を抱え，医療・介護・福祉などが地域の中で完結する必要があります. その中で急性期/専門医療～回復期リハビリ～介護 （在宅，福祉施設） の中心となって活躍している総合診療医もその中心は内科医です. JCHO九州病院は広く地域医療を担うバランスのとれた内科専門医を養成するためにこのプログラムを作成しました. 即ち、JCHO九州病院では急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 、日本老年医学会認定施設、日本消化器学会専門医制度関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設、日本超音波医学界認定専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設、ステントグラフト実施施設 （腹部大動脈瘤，胸部大動脈瘤） 、心臓リハビリテーション研修施設、日本呼吸器学会指導医制度関連施設、 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本神経学会専門医制度准教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設連携教育施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設など

９．北九州市立医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･メンタルストレスに適切に対処する窓口（機構本部人事給与課）があります。 ･ハラスメントに関する苦情の申し出および相談はハラスメント対策専門官が受け付けています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー 室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 21 名在籍しています（下記）。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（統括部長）（総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を随時開催（2025 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、 そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（北九州市立医療センター研修会；2025 年度実績 10 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与 えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に内科臨床研修管理委員会）が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 9 分野以上） で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修で きます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2024 年度実績９体、2025 年度 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、年に一回倫理研修（院内全員が対象）を実施しています。 ･臨床研究推進センターを設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	秋穂　裕唯
指導医数 （常勤医）	21 人(感染症、膠原病、血液、肝臓、内分泌代謝、糖尿病、循環器、呼吸器、消化器)
外来・入院患者数	内科外来患者数（6,824 名 1 ヶ月平均延数） 内科入院患者数（4,575 名 1 ヶ月平均延 数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患 群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	矢津内科消化器科クリニック

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器病学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 など

10. 浜の町病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·浜の町病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·ハラスメント委員会が浜の町病院に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 9 名在籍しています（下記）. ·臨床研修センター（教育部内に設置、担当：統括責任者・診療部長）が内科専門研修プログラムの管理を行い、基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を臨床研修センターが統括管理します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（福岡地域救急医療合同カンファレンス，福岡市内科医会，福岡市中央区内科医会，福岡市中央区消化器病症例検討会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度実績 2 回：受講者 12 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に教育部が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 5 件，2024 年度 1 件，2025 年度 3 件）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 3 回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 10 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2025 年度実績 2 演題）をしています.

指導責任者	衛藤徹也 【内科専攻医へのメッセージ】 浜の町病院は，福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であり，福岡・糸島医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります. 内科ほぼすべての分野において、専門学会の指導医あるいは専門医の資格を持つ部長が指導に当たり、幅広い研修が可能です。シミュレーションラボセンターを併設しているため、高度なシミュレーターを使用して技術指導を受けることが可能です。急患や総合診療症例も多く、急性疾患から慢性疾患まで幅広く研修することが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名，日本内科学会総合内科専門医 30 名， 日本消化器病学会消化器専門医 11 名，日本肝臓学会専門医 3 名， 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本感染症学会専門医 4 名， 日本糖尿病学会専門医 3 名，日本腎臓学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 7 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 4 名， 日本救急医学会救急科専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,460 名（1 ヶ月平均）　入院患者 566 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会内科専門研修基幹病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医制度専門医研修施設認定 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設認定 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設認定 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定医制度指導施設認定 日本病院総合診療医学会認定施設 など

11. 福岡赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室（専任の担当者有り）とインターネット環境（情報システム課が管理）があります。 ·日本赤十字社　福岡赤十字病院の常勤医師として労務環境は適切に管理されています。 ·メンタルストレスに関しては福岡赤十字病院職員メンタルヘルスケア相談実施要綱が制定され、適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。さらに当院産業医また外部専門医（臨床心理士）によるカウンセリングが定期的にまたは希望に応じてかつ秘密を保持しながら、適宜実施されています。 ·日本赤十字社ハラスメント防止規程に則り、また院内にハラスメント防止委員会が設置されています。各部署にハラスメント相談員を置くとともにハラスメント相談箱やメールによる相談も受け付け、プライバシーを厳守し、不利益な取り扱いを受けることのないよう十分配慮して対応しています。 ·専攻医を含めた女性医師が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育園を設置しており、職員であれば利用することができます。週に１日の夜間保育も実施しています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 7 名在籍しています（下記）。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者　（診療部長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、 専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群との合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 · CPC を適宜開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（地域医療連携 Web セミナー、福岡小児腎病理カンファレンス、福岡小児腎疾患研究会、PD 地域連携カンファレンス、感染症対策向上加算合同カンファレンス、サザンブレインカンファレンス、福岡地区小児科勤務医会、福岡クロスキッズカンファレンス、もっとクロス救急セミナー、地域連携意見交換会～つなごう介護・看護・福祉～がん治療連携セミナー、福岡南・筑紫消化器病カンファレンス、南区合同症例学術検討会等； 2025 年度実績 42 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。（上記） ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。（上記） ·専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 5 体）を行っています。

認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、インターネット環境、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、適宜（定期的に）開催（2025 年度実績 6 回）しています。 ･治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会（受託研究審査会）を開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表（2025 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	大坪　俊夫 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡赤十字病院は福岡・糸島医療圏南部の中心的な急性期病院であります。 福岡・糸島医療圏の南部を中心に、広島・山口・愛媛・佐賀・大分・宮崎にある連携施設・特別連携施設とも協力して内科専門研修を行い、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある地域の実情に合わせた実践的な医療も行える内科専門医の育成を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を 実践できる内科専門医になります。 具体的には福岡赤十字病院は、36 診療科（外科の細分化専門科を含む）、511 床を有し、ヘリポートも併設した福岡県福岡市南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。 また、災害時における国内外への医療チームの派遣などの災害救護、国際医療救援活動にも携わり、社会貢献にも力を入れています。さらに、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養も見につけられます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　7 名 日本内科学会総合内科専門医 25 名 日本消化器病学会消化器専門医　6 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医（内科）0 名 日本リウマチ学会専門医 3 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 3 名　ほか
外来・入院患者数	病院全体：外来患者 21,155 名　入院患者　16,481 名 うち内科：外来患者　8,445 名　入院患者　7,843 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づ きながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器病内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本脳神経血管内治療学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会認定病院 NST(栄養サポートチーム)稼働施設 NST(栄養サポートチーム)実地修練施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本血液学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本神経学会準教育施設 日本認知症学会教育施設 日本感染症学会連携研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 人間ドック健診施設機能評価認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本感染症学会研修施設認定 日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定施設 地域がん診療連携拠点病院 など

12. 九州医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·国立病院機構九州医療センターの就業規則に基づき就業する。 1) 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 2) 非常勤医師として労務環境が保障されている。 3) メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）がある。 4) ハラスメント委員会が整備されている。 5) 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 6) 敷地近辺に職員保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 35 名在籍している。 ·内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ·合同カンファレンスを定期的に参画（2022 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。 ·CPC を定期的に開催（2022 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，リウマチ，膠原病，感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表をしている。 2022 年度実績　第 338 回九州地方会　1 題、第 339 回九州地方会　2 題、第 340 回九州地方会 3 題の計 6 題 2023 年度実績　第 120 回日本内科学会　1 題、第 341 回九州地方会　1 題、第 343 回九州地方会 1 題の計 3 題
指導責任者	宮村　知也 九州医療センターは九州内の大学や協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に3つのコースを設け、総合力の高いリサーチマインドを持ち、サブスペシャリティにも強い質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全・倫理を重視し，患者に寄り添う医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 35 名，日本内科学会総合内科専門医 29 名 日本消化器病学会消化器専門医１７名，日本循環器学会循環器専門医 11 名， 日本内分泌学会専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 2 名， 日本腎臓学会専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名， 日本血液学会血液専門医 9 名，日本神経学会神経内科専門医 3 名， 日本リウマチ学会専門医 9 名，日本感染症学会専門医 6 名， 日本救急医学会救急科専門医 4 名，日本臨床腫瘍学会専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者 8,129 名（1 ヶ月平均）内科系入院患者 672 名（1 ヶ月平均延数）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病院連携なども経験ができる。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本東洋医学会教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

13. 医療法人　原三信病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医、専門医等が下記の通り在籍しています. ·教育研修委員会があり、施設内の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を開催（2025 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（地元医師会勉強会窓）専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，代謝，呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 2 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしています. ·臨床研究倫理審査委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています. ·治験事務局を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ·専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています.
指導責任者	古藤和浩 【内科専攻医へのメッセージ】 　福岡県内でも有数のがん治療病院として，がんの診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療，訪問看護ステーションを設置し，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます．また，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　3 名，日本内科学会総合内科専門医　17 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本肝臓学会専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 5 名，日本腎臓学会専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 402 名（1 日平均）　入院患者 280 名（1 日平均）
経験できる疾患群	1）研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，全ての固形癌，血液腫瘍の内科治療を経験でき，付随するオンコロジーエマージェンシー，緩和ケア治療，終末期医療等についても経験できます. 2）研修手帳の一部の疾患を除き，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です.

経験できる技術・技能	1）地域がん診療連携拠点病院として，がんの診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療等幅広いがん診療を経験できます．又、心血管インターベンション治療を含め幅広く内科救急医療を経験でき、技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 非血縁者間末梢血管幹細胞採取認定施設 非血縁者間造血幹細胞移植認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脈管学会認定研修関連施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本高血圧学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 福岡県肝疾患専門医療機関 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会認定施設 乳房再建エキスパンダー実施施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本手外科学会関連研修施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 日本産科婦人科内視鏡学会ロボット手術研修施設 日本脳卒中学会-一次脳卒中センター 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本ハイパーサーミア学会認定施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 日本栄養治療学会認定 NST 稼働施設 日本口腔外科学会認定准研修施設 健康保険組合連合会指定日帰りドック実施施設 マンモグラフィ検診画像認定施設 人間ドック健診専門医研修施設 地域がん診療連携拠点病院 紹介受診重点医療機関 臨床研修病院など

14. 九州大学病院別府病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·非常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する制度があります. ·監査室が九州大学に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，当直室が整備されています. ·敷地内に寮があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 2 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に医療安全 2 回，感染対策 2 回の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型の症例検討会（2025 年度実績地元医師会合同勉強会 2 回、同門会としてのセミナー2 回）を定期的に開催しています．また，院内多職種参加型の勉強会(2025 年度実績 2 回)を行い，専攻医にも積極的に参加頂いています.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，膠原病及び類縁疾患，循環器，消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています. ·専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています.
指導責任者	三苦　弘喜 【内科専攻医へのメッセージ】 当科の特徴は、免疫・アレルギーから血液・腫瘍、循環器までさまざまな分野の専門医が、同じ内科で診療を行っていることです。勉強会、カンファレンス、回診も一緒に行っており、専門知識の習得はもちろんですが、患者さん全体を広い視野で診療するという姿勢を研修することができると思います。同時に当院では開院以来 90 年にわたって温泉・リハビリ療法を積極的に行っており、とくに高齢者の内科疾患の治療について薬物療法以外の視点から研修することは貴重な経験になると思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　2 名，日本内科学会総合内科専門医　6 名 日本リウマチ学会専門医 3 名（内、指導医 1 名），日本循環器学会循環器専門医 2 名，日本臨床腫瘍内科専門医　1 名、日本消化器病学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名（内、指導医 1 名）ほか
外来・入院患者数	外来患者 2,596 名（1 ヶ月平均）　入院患者 263 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1）研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，関節リウマチをはじめとする自己免疫疾患の診断、治療，乳癌，甲状腺癌をはじめとする各種固形がんへのがん薬物治療、付随するオンコロジーエマージェンシー，緩和ケア治療，終末期医療を経験できます。消化器疾患の検査と治療、特に消化管内視鏡検査、内視鏡的治療、循環器疾患の検査（心臓カテーテル検査を含む）と治療についても経験できます. 2）地域の特性として，高齢者患者さんが多く通院されており、複数の疾患を有している症例も多く、総合内科的視点から全身を診る経験ができます.

経験できる技術・技能	1) 関節リウマチ・自己免疫疾患患者の関節超音波などの検査，生物学的製剤やリハビリテーションを含めた幅広い診療を経験できます. 2) 固形腫瘍の診断，がん薬物治療（標準治療），緩和ケア治療，放射線治療など，幅広いがん診療を経験できます. 3) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能のうち，超音波検査、消化管内視鏡検査などを，実際の症例に基づきながら経験することができます. 4) また，循環器領域においては，最新(4D)超音波心エコー機器や心臓カテーテル検査による心疾患の診断を経験できます.
経験できる地域医療・診療連携	高齢患者の診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本リウマチ学会認定教育施設 日本循環器学会研修関連施設 公益社団法人日本臨床腫瘍学会認定連携施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 など

15. 株式会社麻生　飯塚病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN, Wi-Fi）があります. ● 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります．医務室には産業医および看護師が常駐しています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ● 敷地内に 24 時間対応院内託児所，隣接する施設に病児保育室があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	● 指導医は 40 名在籍しています（下記）。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する，内科専門研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年実績　医療倫理 5 回，医療安全 9 回，感染対策 7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的に開催（2025 年実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ● 特別連携施設の専門研修では，症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います．なお，研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ● 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 45 以上の疾患群）について研修できます. ● 専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ● 倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ● 治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります
指導責任者	本村　健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて，プライマリ・ケアから高度急性期医療，地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます．米国ピッツバーグ大学の教育専門医と，6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た，教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います. 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です．将来のキャリアパスが決定している方，していない方，いずれに対しても価値のある研修を行います.

指導医数 （常勤医） 2017 年度実績	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器専門医 15 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 33,100 名（1 ヶ月平均）　入院患者 25,024 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 飯塚・頴田家庭医療プログラム 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本臨床栄養代謝学会認定稼働施設　　など

16. 国家公務員共済組合連合会　新小倉病院

認定基準 1)専攻医の環境	·臨床研修制度協力型臨床研修病院です. ·図書室とインターネット環境があります. ·内科専攻医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（労働衛生管理委員会）があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，当直室が整備されています. ·近隣に宿舎があり、利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が4名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催。今後は年度内に複数回の定期開催を予定，(医療倫理1回、医療安全2回，感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，代謝，呼吸器，リウマチ，膠原病，血液，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	塚本　浩 【内科専攻医へのメッセージ】 　新小倉病院は福岡県内外の基幹病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて活動を行っています。当院では専攻医が各専門内科をローテーションする必要がなく、1 年間内科に在籍し、専門医の指導を受けながら専攻医の希望を踏まえた様々な疾患を経験することができるのが強みです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医4名、日本リウマチ学会指導医2名、 日本消化管学会胃腸科指導医1名、がん薬物療法指導医1名、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医1名、 プライマリ・ケア指導医1名 日本血液学会指導医1名、ICD 2名
外来・入院患者数	内科系外来患者 2,191名（1ヶ月平均）内科系入院患者1,905名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	総合内科，消化器，循環器，代謝，呼吸器，血液，リウマチ，膠原病，感染症および救急の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育関連施設　　日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設　　日本呼吸器学会専門医制度関連施設 日本循環器学会専門医認定施設　　日本リウマチ学会教育施設

17. 地方独立行政法人福岡市立病院機構　福岡市民病院

認定基準 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·地方独立行政法人福岡市立病院機構有期職員として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります. ·セクシュアル・ハラスメントの対策等に関する委員会が機構本部に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·同一機構である福岡市立こども病院敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 11 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療安全・感染対策講習会を定期的に開催。専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·本院での CPC，または九州大学形態機能病理学教室で実施される病理解剖の参加を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，神経，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	小柳 年正 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡市民病院は，高度救急・高度専門医療を提供する地域の中核病院であり，内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名、日本循環器学会専門医 7 名、日本消化器病学会指導医 2 名、日本消化器病学会専門医 5 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本消化管学会胃腸科指導医 1 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、日本神経学会指導医 3 名、日本神経学会専門医 3 名、日本腎臓学会指導医 1 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名、日本内分泌学会指導医 1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本リウマチ学会指導医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本脳卒中学会指導医 2 名、日本脳卒中学会専門医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 4,428 名（1 ヶ月平均延数） 入院患者 5,369 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 8 領域の症例を幅広く経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設（新制度） 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設（旧制度） 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・ＮＳＴ実施施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 特定行為研修指定研修機関 日本臨床衛生検査技師会・日本臨床検査標準協議会　精度保証施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター 日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC)コア施設

18. 社会医療法人財団池友会　福岡和白病院

認定基準 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・メンタルストレスに適切に対処する臨床心理士が定期的に来院しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室，更衣室、当直室が整備されています。 ・提携院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 10 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	有田　武史 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は福岡市内でも屈指の救急指定病院であり、365 日 24 時間、重症例にいたるまで常時救急対応可能であり、幅広く急性期疾患を経験できます。また、当院は地域診療拠点病院として慢性疾患も近隣の医療機関と連携しながら診療を進めており、地域がん診療連携拠点病院として手術、薬物療法、放射線治療にも積極的に取り組んでいます。内視鏡では ESD を含めて症例多数あり、循環器内科領域では療は PCI（経皮的冠動脈形成術）、TAVI〈経皮的大動脈弁置換術）、EVT（血管内末梢血管治療）、心原性ショックに対するインペラ（補助人工心臓）など高度で先進的な治療を含め幅広く対応しています。当院での研修では、豊富な症例をもとに、より専門的な内科診療の診療経験だけでなくコモンディジーズや超高齢社会を反映した複数の疾患・病態を持った患者の診療経験ができます。

指導医数 （常勤医）	・日本内科学会指導医 5 名 ・日本内科学会総合内科専門医 10 名 ・日本消化器内視鏡学会専門医 3 名 ・日本消化器病学会専門医 2 名 ・日本循環器学会専門医 9 名 ・日本呼吸器学会専門医 1 名 ・日本糖尿病学会指導医 1 名、専門医 1 名 ・日本血液学会指導医 1 名 ・日本臨床腫瘍学会指導医 1 名 ・日本不整脈心電学会専門医 1 名　　ほか
外来・入院患者数	外来延患者　147,346 名 入院患者　125,460 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、急性期症候を示すほとんどの領域のほか、慢性疾患、腫瘍性疾患において診断、治療の経験が可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本専門医機構　内科領域専門研修プログラム ・日本消化器内視鏡学会専門医指導連携施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・地域がん診療連携拠点病院 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会 IVL システム施設 ・日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 ・日本血液学会認定専門研修教育施設 ・日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 ・日本心エコー図学会認定心エコー図専門医制度研修施設 ・日本肝臓学会特別連携施設 ・日本呼吸医学会呼吸器専門研修施設 ・潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖実施施設 ・日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度連携施設 ・日本病院総合診療医学会認定施設 ・IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテール実施施設 ・経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 ・パワードシースによる経静脈的リード抜去術施設 など

19. 大阪大学医学部附属病院

認定基準 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ·非常勤医員として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する施設（キャンパスライフ健康支援・相談センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 ·ハランスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 82 名在籍しています(2025 年度)。 ・プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 ・プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 ·医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC（内科系） を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に開催されています。 ・大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号 CRB5180007）、介入研究等・観察研究等倫理審査委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	プログラム統括責任者　山本浩一　副プログラム統括責任者　保仙直毅 研修委員会委員長　山本浩一
指導医数 （常勤医）	(2025 年度) 日本内科学会指導医 82 名 総合内科専門医 145 名 内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。 日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医 日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科） 日本リウマチ学会専門医、日本老年病医学会専門医、日本感染症学会専門医 JMECC ディレクター　0 名、JMECC インストラクター　8 名

外来・入院患者数	2025 年度実績　外来患者延べ数　196,432 名、退院患者数　6,680 名 （病院許可病床数　一般　1034 床、精神　52 床） 2025 年度　入院患者延べ数　99,135 名　（循環器内科　17,237 名、腎臓内科　6,325 名、消化器内科　18,867 名、糖尿病・内分泌・代謝内科　6,285 名、呼吸器内科　11,910 名、免疫内科　8,239 名、血液・腫瘍内科　13,614 名、老年・高血圧内科　4,440 名、脳神経内科　11,277 名、感染症内科　941 名）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することができます。このほか、ICU と連携して ICU のローテーション研修を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本老年病医学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設

20. 医療法人社団高邦会　福岡中央病院

認定基準 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています. ･監査・コンプライアンスはグループ本部（東京事務所）で整備されています。 ･女性専攻医も安心して勤務できるよう、更衣室・休憩室・当直室・シャワー室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 8 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 e-Learning、医療安全 2 回，感染対策 2 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2025 年度予定）に定期的に参画、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（2025 年度予定）を定期的に開催、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、呼吸器、消化器、循環器、内分泌、代謝、神経、膠原病及び類縁疾患の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。総合内科でも患者を受け入れており、研修可能です。 ・剖検はグループの福岡山王病院と連携して行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･グループで倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています。 ･グループで治験管理委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ･内科各分野の学会で学会発表を行うほか、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われており、専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	中村　優理 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡中央病院は「生命の尊厳、生命の平等」の理念のもとに、2019 年 4 月、国際医療福祉大学・医療法人社団高邦会グループの一員として開院しました。福岡市の中心に位置し、他の医療機関との連携に加えて、あらゆる医療福祉のニーズに最高レベルで応える複合体を目指す国際医療福祉大学・高邦会グループの充実した医療・福祉施設と連携しております。専門医指導のもと基本的診察技能、診断学、検査、治療法等を幅広く習得できます。幅広い内科疾患について研修を行うことができますので、知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 8 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器指導医 4 名・同専門医 7 名、 日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本内分泌学会指導医 2 名・同専門医 4 名 日本糖尿病学会指導医 1 名・同専門医 3 名、 日本神経学会指導医 4 名・同専門医 8 名 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名・同専門医 2 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,800 名（1 ヶ月平均）　入院患者 4,000 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1）研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、 呼吸器、消化器、循環器、内分泌・代謝、神経、膠原病及び類縁疾患等について、経験できます。 2）研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1）各内科分野の基本的診断法、内視鏡検査・治療など、幅広い診療技術を経験できます。 2）技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	グループ内をはじめ、地域の医療機関と連携しており、それらの医療施設との診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本糖尿病学会認定教育施設 ・日本リウマチ学会教育施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本神経学会専門医制度教育施設 ・日本老年医学会認定施設 など

広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会

（令和８年４月現在）

基幹施設担当委員	広島赤十字・原爆病院	澤部　琢哉
		横山　敬生
		亀井　望
		牟田　毅
		高橋　義雄
連携施設担当委員	九州大学病院	桑原　綾子
	呉医療センター・中国がんセンター	大下　智彦
	JA 尾道総合病院	小野川　靖二
	県立広島病院	上田　浩德
	庄原赤十字病院	鎌田　耕治
	中電病院	金　宣眞
	県立安芸津病院	後藤　俊彦
	JCHO 九州病院	原田　大志
	北九州市立医療センター	秋穂　裕唯
	浜の町病院	衛藤　徹也
	福岡赤十字病院	大坪　俊夫
	九州医療センター	宮村　知也
	原三信病院	古藤　和浩
	九州大学病院別府病院	三苫　弘喜
	飯塚病院	小田　浩之
	新小倉病院	塚本　浩
	福岡市民病院	小柳　年正
	福岡和白病院	有信　洋二郎
	大阪大学医学部附属病院	山本　浩一
	福岡中央病院	吉田　絵美

≪広島赤十字・原爆病院 内科専門研修 作業部会≫

澤部　琢哉	（プログラム統括責任者、リウマチ膠原病分野責任者）
横山　敬生	（腎臓内科分野責任者）
辻　　恵二	（消化器内科分野責任者（肝臓））
岡信　秀治	（消化器内科分野責任者（膵臓・消化管））
林田　晃寛	（総合内科分野責任者）
岡田　武規	（循環器内科分野責任者）
山﨑　正弘	（呼吸器内科分野責任者）
雜賀　徹	（脳神経内科分野責任者）
亀井　望	（内分泌・代謝分野責任者）
片山　雄太	（血液内科分野責任者）
牟田　毅	（血液内科分野責任者）
中村　覚	（事務局代表　教育研修推進室長代理）

整備基準 44 に対応

広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム

専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医が多様な医療現場で活動し、

①病院医療：内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備え実践します。内科疾患全般の初期対応とコモンディジーズの診断と治療を行うことに加え、内科系サブスペシャリストとして診療する際にも、臓器横断的な視点を持ち全人的医療を実践します

②地域医療：かかりつけ医として地域において常に患者と接し、内科系の慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践します

③救急医療：内科系急性・救急疾患に対するトリアージを含め、地域での内科系の急性・救急疾患への迅速かつ適切な診療を実践します

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

広島赤十字・原爆病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、

広島県広島二次医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はSubspecialty領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム終了後には、広島赤十字・原爆病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じて各大学病院を含む医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院に進学することも可能です。

2） 専門研修の期間

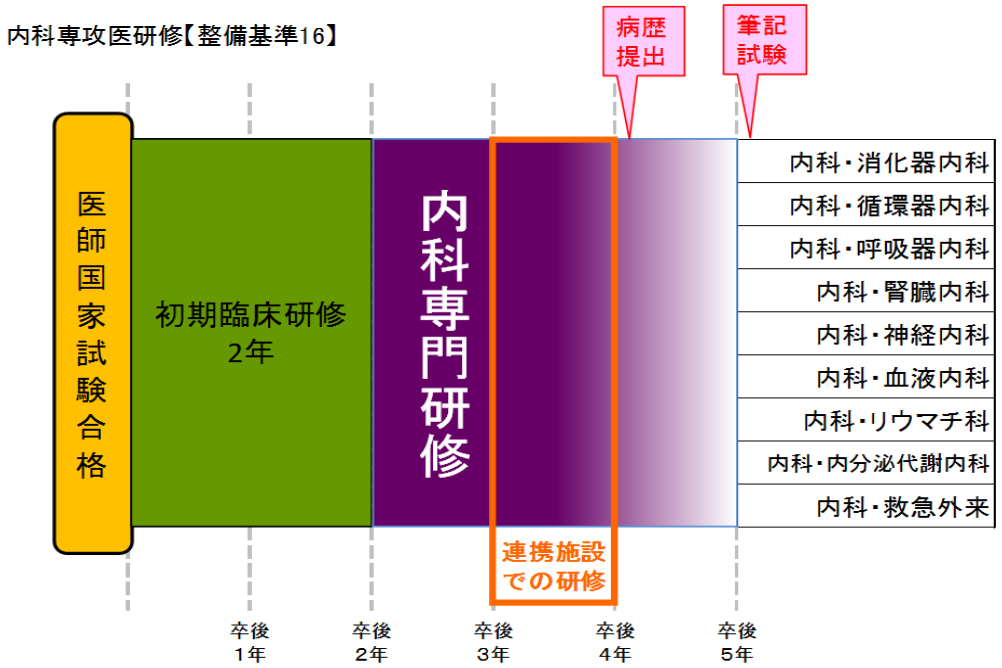


図1. 広島赤十字・原爆病院内科　専門研修プログラム（概念図）

年次＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
専攻医1年次	広島赤十字・原爆病院（内科・Subspecialty）											
	各科レクチャー・医療倫理・医療安全・感染対策セミナー・CPC・JMECC など											
	症例経験（20 疾患群 40 症例以上）病歴要約作成・登録（10 症例以上）											
専攻医2年次	連携施設（内科・Subspecialty）											
	各科レクチャー・医療倫理・医療安全・感染対策セミナー・CPC・JMECC など											
	症例経験（45 領域 80 症例以上）病歴要約作成・登録（全 29 症例）											
専攻医3年次	広島赤十字・原爆病院（内科・Subspecialty）											
	各科レクチャー・医療倫理・医療安全・感染対策セミナー・CPC・JMECC など											
	症例経験（45 領域 120 症例以上）病歴要約作成・登録（全 29 症例）											

基幹施設である広島赤十字・原爆病院内科で 2 年間、連携施設で 1 年間の専門研修を行います。
連携施設での研修は原則として専攻医 2 年目を予定しています。

3） 研修施設群の各施設名（P. 17「広島赤十字・原爆病院研修施設群」参照）

基幹施設：　広島赤十字・原爆病院

連携施設：　九州大学病院／呉医療センター・中国がんセンター／JA 尾道総合病院／県立広島病院／庄原赤十字病院／中電病院／県立安芸津病院／JCHO 九州病院／北九州市立医療センター／浜の町病院／福岡赤十字病院／九州医療センター／原三信病院／九州大学病院別府病院／飯塚病院／新小倉病院／福岡市民病院／福岡和白病院／大阪大学医学部附属病院／福岡中央病院

4) プログラムに関わる委員会と委員

広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P.61「広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

5) 各施設での研修内容と期間

専攻医 2 年目の秋頃に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。研修達成度によっては 3 年目に Subspecialty 研修も可能です。（図 1）。

6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である広島赤十字・原爆病院診療科別診療実績を以下の表に示します。広島赤十字・原爆病院は広島市の 4 基幹病院の一つであり、コモンディジーズ診療から専門的な医療まで行っています。

	入院延患者数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
消化器内科	18,712	37,053
循環器内科	7,552	16,179
呼吸器内科	11,913	11,335
血液内科	46,502	39,873
腎臓内科	4,786	18,680
脳神経内科	4,265	6,432
リウマチ科	4,506	13,031
内分泌代謝内科	6,376	21,324
緩和ケア内科	3,853	3,600
総合内科	0	408
内科　合計	108,465	167,915

＊　研修目標に対して一般には不足がちとされる血液内科・リウマチ科（膠原病）・脳神経内科においても、当院では豊富な症例があり、十分な症例を経験可能です。

＊　内科系剖検体数は 2022 年度 7 体、2023 年度 4 体で研修に十分な例数です。

7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安（ローテーション例）

専攻医 1 年目は広島赤十字・原爆病院の消化器・循環器・呼吸器・血液・リウマチ（膠原病）・脳神経・内分泌代謝・腎臓の各診療科を 1〜3 ヶ月のおよその目安としてローテートします。この間、日中の救急外来や当直を当番制で担当します。感染症、救急、総合内科分野は、領域横断的に受け持つ事になります。

専攻医 2 年目は原則として連携施設にて 1 年間の研修を行います。代表例としては都市部に立地する県立広島病院あるいは中電病院、または呉医療センター・中国がんセンターや JA 尾道総合病院、九州大学で 6 ヶ月、非都市部の庄原赤十字病院あるいは県立安芸津病院で 6 ヶ月研修します。

専攻医 3 年目は原則として広島赤十字・原爆病院で研修を行います。経験症例が目標に到達していない領域を中心に研修し、目標に到達した専攻医は希望する subspeciality の研修を開始する事が出来ます。

8) 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月頃に自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後、1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

9) プログラム修了の基準

① J-OSLER を用いて、以下の i)～vi)の修了要件を満たすこと。

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済みであることが必要です（P.71 別表 1「各年次到達目標」参照）。

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されていること。

iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で２件以上あること。

iv) JMECC 受講歴が 1 回あること。

v) 医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があること。

vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められること。

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを広島赤十字・原爆病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 か月前に広島赤十字・原爆病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を延長することがあります。

10) 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ii) 履歴書

iii) 広島赤十字・原爆病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

11)　プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う（P.17「広島赤十字・原爆病院研修施設群」参照）。

12)　プログラムの特色

① 本プログラムは、広島市の４基幹病院のひとつである広島赤十字・原爆病院を研修プログラムの基幹施設として、 広島市内や呉、尾道市内、福岡県福岡市内、大分県別府市内、大阪府吹田市内、中山間地等に立地する 19 施設を連携施設として構成されています。都市部の大病院での研修と中山間地等の病院での研修を組み合わせることにより、幅広い疾患を研修するとともに、地域により異なる多彩な社会的背景の患者さんを経験する事が出来ます。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の計 3 年間になります。

② 基幹施設である広島赤十字・原爆病院は、広島市の 4 基幹病院の一つである急性期病院です。内科専門医研修で経験する事を求められながら症例が不足しがちな血液疾患・膠原病・脳神経疾患についても豊富な症例があり、広い分野にわたる十分な症例を経験する事が出来るだけでなく、多数の指導医により適切な指導を受ける事が出来ます。また中山間地等非都市部の連携施設は地域に根ざす第一線の病院であり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会をより反映した複数の病態を持った患者の診療を経験出来ます。

③ 基幹施設である広島赤十字・原爆病院と連携施設での計 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、80 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.71 別表 1「各年次到達目標」参照）。

④ 3 年の研修期間のうちの 1 年間は連携施設である各医療機関において研修を行います。立場や地域における役割の異なる医療機関で研修により幅広い知識を身につけます。

⑤ 基幹施設である広島赤十字・原爆病院での 2 年間と連携施設での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（P.71 別表 1 「各年次到達目標」参照）。

⑥ 専攻医 2 年終了時の時点において、連携施設での 1 年間の研修を終え、かつ上記目標を達成している場合には、3 年目に広島赤十字・原爆病院において消化器・循環器・呼吸器等の subspeciality の研修を開始する事が出来ます。

13)　継続した Subspecialty 領域の研修の可否

・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として、Subspecialty 領域の研修につながることはあります。

・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。（上記 12）の⑥参照）

14)　逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月頃と 2 月頃とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

15)　研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

整備基準 45 に対応

広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム

指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER)にその研修内容を登録するので、 その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

・担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群・症例の内容について、 都度、 評価・承認します。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センター (仮称) からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。 担当指導医と Subspecialty の上級医は, 専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、 知識, 技能の評価を行います。

・担当指導医は専攻医が専門研修 (専攻医) 2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理 (アクセプト) されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2) 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法ならびにフィードバックの方法と時期

・年次到達目標は、P.71 別表 1「広島赤十字・原爆病院内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について」に示すとおりです。

・担当指導医は、臨床研修センター(仮称) と協働して、 3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・担当指導医は,臨床研修センター (仮称) と協働して、 6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。 また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・担当指導医は、臨床研修センター (仮称) と協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。

・担当指導医は、臨床研修センター (仮称) と協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価,ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバック行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

・担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。

・研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院

サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし、 担当指導医が承認を行います。
・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4)日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)の利用方法
・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約二次評価査読委員（二次査読）による外部評価とフィードバックを受け、指摘事項に基づく改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録,出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。 担当指導医と研修管理委員会はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
・担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5)逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握
専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会およびプログラム管理委員会が閲覧します。
集計結果に基づき、広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6)指導に難渋する専攻医の扱い
必要に応じて、臨時（毎年 8 月と 2 月の予定の他に)で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価)を行い、その結果を基に広島赤十字・原爆病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。
状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇
広島赤十字・原爆病院の給与規定によります。

8) FD 講習の出席義務
厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修(FD) の実施記録として、J-OSLER を用います。

9) 日本内科学会作製の冊子 「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため, 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し、形成的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

別表１　　各年次到達目標

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ(高齢者)		1	
	総合内科Ⅲ(腫瘍)		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

1. 目標設定と修了要件

以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組むこと。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修修了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医２年修了時　目安	80	45	29
専攻医１年修了時　目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は 41 疾患群であるが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。

3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。

4. 各領域について

①総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科Ⅲ（腫瘍）」の異なる領域から１例ずつ計２例提出する。

②消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

③内分泌と代謝：それぞれ１症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例）「内分泌」２例＋「代謝」１例、「内分泌」１例＋「代謝」２例

5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大 60 症例を上限とし、病歴要約への適用については最大 14 症例を上限とする。

別表２　広島赤十字・原爆病院　週間スケジュール（例）

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日・祝</th></tr>
<tr><td>午前</td><td colspan="5">内科系各診療科：外来、検査、入院患者診療</td><td rowspan="3">・担当患者の病態に応じた診療
・オンコール
・日当直
・　講習会学会参加
など</td></tr>
<tr><td>午後</td><td colspan="5">内科系各診療科：検査、入院患者診療、カンファレンス</td></tr>
<tr><td>17 時以降</td><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 当直など</td></tr>
</table>

月・水・金は内科専攻医の当番制で救急外来業務を行います。
各診療科(Subspeciality)により担当する業務内容やカンファレンスの曜日、時間帯は異なります。
日当直は内科系スタッフにて当番制で行います。
オンコールは内科もしくは各診療科(Subspeciality)にて当番制で行います。
地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会、研究会等は各開催日に随時参加します。

2026. 04